

令和 7 年 度

業 務 年 報

和 歌 山 県 工 業 技 術 セ ン タ ー

目次

1	工業技術センターの概要	1
(1)	沿革	1
(2)	令和7年度の活動概要	3
(3)	所の構成と規模	4
ア	土地・建物	4
イ	組織図	5
ウ	職員現況	5
エ	会計（令和7年度決算見込額）	6
オ	令和7年度購入主要試験研究設備	6
2	試験研究業務	7
(1)	地域産業活性化促進事業	7
ア	萌芽研究	7
イ	ステップアップ研究	7
ウ	受託研究	7
エ	一般共同研究	7
オ	基盤研究（経常研究）	8
(2)	コア技術確立事業	8
(3)	提案公募型事業	8
ア	農林水産業競争力アップ技術開発事業（和歌山県）	8
イ	オープンイノベーション研究・実用化推進事業（生物系特定産業技術研究支援センター）	8
ウ	環境対応革開発実用化事業（日本皮革技術協会）	9
エ	科学研究費助成事業 基盤研究（C）（日本学術振興会）	9
オ	2025年度機械振興補助事業（公設工業試験研究機関等 共同研究）（公益社団法人JKA）	9
(4)	試験研究成果	10
ア	外誌発表	10
イ	その他出版物	11
ウ	所外口頭発表	11
(5)	特許権	16
ア	公開特許	16
イ	登録	16
ウ	実施許諾	17
3	技術相談・指導・企業人材育成・試験分析・設備機器貸付	18
(1)	技術相談・指導	18
ア	相談指導項目別集計	18
イ	訪問企業数及び延訪問回数	18
ウ	零細皮革産業技術指導事業（専門家による指導）	18
(2)	企業人材育成	18
ア	研修生受入	18
(3)	試験分析等	19
(4)	設備機器貸付	20
4	技術交流	21
(1)	講習会・講演会	21
ア	講習会・講演会（工業技術センター主催）	21
イ	講習会・講演会（工業技術センター 共催・後援・協賛）	22
(2)	展示会	24
(3)	技術研修・スクール	24
(4)	講師派遣	25
5	広報	27
(1)	刊行物	27

ア	令和 7 年度研究報告	27
イ	技術情報誌 TECHNORIDGE	27
(2)	来訪者状況	28
(3)	外部報道機関等	28
(4)	一般見学者	28
6	その他	29
(1)	職員研修	29

1 工業技術センターの概要

(1) 沿革

大正 5 年 4 月	綿織物並びにその染色布の輸出奨励を目的とし、農商務大臣より認可(1 月)を得て工業試験場を設立、県庁内に仮事務所を置く。
大正 5 年 9 月	和歌山市本町九丁目に庁舎新築を起工する。
大正 6 年 3 月	庁舎が竣工し、工務、図案、庶務の 3 部を置く。
大正 6 年 4 月	和歌山市七番丁に県輸出綿織物検査所が設立され、その所長を工業試験場の場長が兼務する。
大正 9 年 3 月	県輸出綿織物検査所を廃止してその建物と設備を紀州ネル同業組合に無償貸与し、連合会和歌山支部検査所として、同組合に検査業務を移管するとともに、県工業試験場を廃止し、その敷地と建物及び業務を和歌山捺染綿布輸出協会に移管する。
大正 14 年 4 月	和歌山県織物同業組合に交付していた染色試験費補助金を廃止し、染織試験場の設置費に充てるとして、勧業費に染色試験費が新設される。
大正 15 年 4 月	和歌山市一番丁に県醸造研究所を開設する。
昭和 4 年 4 月	県醸造研究所を県商工水産課付属染色部と合併して県工業試験場とし、庶務、醸造の 2 部を和歌山市一番丁に、染色部を和歌山市七番丁に、海草郡黒江町船尾(現海南市船尾)125 の旧黒江町立漆器学校跡に漆器部を置く。
昭和 7 年 4 月	和歌山市七番丁に機織部を増設する。
昭和 13 年 4 月	和歌山市宇須 139 において新庁舎の建築に着工する。
昭和 13 年 11 月	応用化学部を設け染色部に併置する。
昭和 14 年 3 月	宇須新庁舎本館が 2 月に竣工し、庶務部、染色部、応用化学部、醸造部の移転を完了する。
昭和 14 年 4 月	庶務課、色染課、醸造課、漆工課、機織課、応用化学課の 6 課制とする。
昭和 14 年 5 月	宇須新庁舎の工場棟及び付属建物が竣工し、機織課が移転を完了する。
昭和 14 年 11 月	11 月 26 日、商工大臣代理以下の臨場を得て竣工式を挙げる。翌 27 日、業者及び関係者を招待して場内見学を実施する。
昭和 15 年 4 月	漆工課が分離し、県漆器試験場として独立する。
昭和 17 年 4 月	県林業試験場木工部(西牟婁郡朝来村熊野林業学校内)が、県漆器試験場木工部となる。
昭和 19 年 3 月	県漆器試験場木工部が廃止となり、漆器試験場本場内へ吸収される。
昭和 20 年 1 月	県工業試験場に県漆器試験場、県立機械工養成所を合併し、県戦時工業指導所とする。総務部、繊維部、金属部、化学部、木工部、機械工養成部の 6 部制とする。
昭和 20 年 10 月	終戦に伴い和歌山県工業指導所と改称し、庶務課、繊維部、木工部、食品部、化学部、機械工養成部の 1 課 5 部とする。
昭和 21 年 2 月	組織を改正し、庶務課、繊維部、木工部、食糧加工部、化学部、醸造部、機械工養成部の 1 課 6 部とする。
昭和 21 年 12 月	組織を改正し、庶務課、繊維部、木工部、食品部、化学部、機械部の 1 課 5 部とする。
昭和 22 年 10 月	県漆器試験場を県工業指導所から分離設置する。
昭和 24 年 7 月	和歌山県工業試験場と改称する。
昭和 27 年 4 月	組織を改正し、庶務課、繊維部、染色部、木工部、食品部、化学部、機械部の 1 課 6 部とする。
昭和 29 年 7 月	組織を改正し、新たに次長を設け、総務課、繊維部、染色部、木材工業部、食品部、化学部、機械金属部の 1 課 6 部とする。
昭和 33 年 3 月	化学部に皮革研究部門を設け、専任技師を置く。
昭和 36 年 5 月	組織を改正し、主任研究員の職を新たに設ける。総務課、繊維部、染色部、化学部、食品部、木材工芸部、木材加工部、機械金属部の 1 課 7 部とする。
昭和 37 年 3 月	県庁内に薬事指導所が設置される。

昭和 38 年 10 月	県漆器試験場が新庁舎(海南市船尾 226-2 県漆器センター)へ移転する。
昭和 41 年 8 月	和歌山市雄松町3丁目に皮革研究室を新築する。
昭和 42 年 4 月	和歌山市小倉 60 番地に建設していた工業試験場新庁舎が完成し移転する。
昭和 42 年 8 月	組織を改正し、技監、副部長の職を新たに設ける。総務課、繊維部、染色部、化学部、食品部、木材工芸部、木材加工部、機械金属部、皮革部の1課 8 部とする。
昭和 43 年 9 月	組織を改正し、総務課に庶務係と管理係を置く。
昭和 45 年 8 月	組織を改正し、専門研究員の職を新たに設ける。
昭和 47 年 4 月	組織を改正し、専門技術員の職を新たに設ける。総務課(庶務係、管理係)、繊維部、染色部、化学部、食品部、木材工業部、機械金属部、高分子部、皮革部の1課 8 部とする。
昭和 48 年 8 月	技術情報業務を始める。
昭和 49 年 7 月	組織を改正し、企画員、技術情報主任の職を新たに設ける。総務課を総務企画課に、皮革部を皮革分場に改め、総務企画課(庶務係、管理係)、繊維部、染色部、化学部、食品部、木材工業部、機械金属部、高分子部、皮革分場の1課 7 部 1 分場とする。
昭和 52 年 4 月	薬事指導所が和歌山市湊 571-1 に移転整備される。
昭和 56 年 7 月	マイコン利用技術業務を開始する。
昭和 58 年 6 月	組織を改正し、技監を総括専門員に改める。
昭和 63 年 4 月	組織を改正し、総括専門員を総括研究員に、専門技術員を主任研究員に、技術情報主任を主任研究員(技術情報担当)に、専門研究員を主査研究員に、技師を研究員にそれぞれ改める。
昭和 63 年 11 月	地域融合推進室を開設する。
平成元年 4 月	名称を「工業試験場」から「工業技術センター」に改め、その組織を総務課、情報企画部、繊維木工部、化学食品部、機械電子部、皮革分場の1課4部1分場とする。
平成 3 年 3 月	和歌山テクノ振興財団が設立される。
平成 4 年 4 月	組織を改正し、総務課、企画調整部、指導評価部、造形技術部、研究開発部、皮革分場の1課4部1分場とする。
平成 4 年 9 月	平成 2 年度から開始した再編整備の一環として研究交流棟が完成する。
平成 4 年 11 月	研究交流棟 5 階に和歌山テクノ振興財団が事務所を置き、インキュベーター室 7 室を運営する。
平成 7 年 1 月	新本館が完成する。
平成 8 年 4 月	組織を改正し、総務課、企画調整部、生活産業部、材料技術部、化学技術部、システム技術部、皮革分場の1課5部1分場とする。
平成 8 年 12 月	実証棟が完成し、再編整備が完了する。
平成 9 年 1 月	再編整備完了並びに実証棟竣工記念式典を挙げる。
平成 9 年 4 月	組織を改正し、海南市船尾の漆器試験場を本センターに合併するとともにデザインセンターを新設し、総務課、企画調整部、生活産業部、材料技術部、化学技術部、システム技術部、漆器研究開発室、皮革分場、デザインセンターの1課5部1室1分場1センターとする。
平成 9 年 10 月	海南市南赤坂 11 番地、和歌山リサーチラボ内に、和歌山県デザインセンターを開設する。
平成 14 年 4 月	組織を改正し、薬事指導所を本センターに統合して、総務課、企画調整部、生活産業部、材料技術部、化学技術部、システム技術部、漆器研究開発室、薬事開発部、皮革分場、デザインセンターの1課 6 部1室1分場1センターとする。
平成 15 年 4 月	組織を改正し、企画総務部(総務課、企画課)、生活産業部、材料技術部、化学技術部、システム技術部、漆器研究開発室、薬事開発部、皮革分場、デザインセンターの 6 部1室1分場1センターとする。
平成 16 年 6 月	和歌山テクノ振興財団と和歌山県中小企業振興公社が統合され、わかやま産業振興財団となる。研究交流棟 5 階には財団のテクノ振興部が引き続き事務所を置く。
平成 17 年 3 月	3 月 10 日デザインセンターを和歌山市小倉 60 番地に移転する。

平成 17 年 4 月	組織を改正し、皮革分場を本センターに統合して、企画総務部（総務課、企画課）、生活産業部、材料技術部、化学技術部、システム技術部、薬事開発部、産業工芸部、皮革開発部、デザイン開発部の 9 部とする。
平成 18 年 4 月	組織を改正し、企画総務部（総務課、企画課）、生活産業部、材料技術部、化学技術部、システム技術部、薬事開発部、工芸・デザイン部、皮革開発部の 8 部とする。
平成 19 年 4 月	組織を改正し、企画総務部（総務課、企画課）、生活産業部、材料技術部、化学技術部、システム技術部、薬事開発部、工芸・デザイン部、繊維皮革部の 8 部とする。
平成 20 年 4 月	生活産業部内に食品開発室を設置する。
平成 21 年 12 月	わかやま産業振興財団テクノ振興部が、和歌山市本町二丁目の財団本部へ移転する。これに伴い、研究交流棟 5 階において財団が運営していたインキュベーター室も廃止となる。
平成 22 年 4 月	組織を改正し、企画総務部（政策調整課、技術企画課）、食品産業部、生活・環境産業部、機械金属産業部、化学産業部、電子産業部、薬事産業部の 7 部とする。
平成 27 年 4 月	組織を改正し、企画総務部（政策調整課、技術企画課）、食品産業部、生活・環境産業部、機械産業部、化学産業部、電子・材料産業部、薬事産業部の 7 部とする。
平成 28 年 5 月	創立 100 周年を記念し、リニューアルセレモニーを挙げる。
平成 30 年 5 月	「実証棟」を「オープンラボ棟」に改めたことを記念し、オープンラボ棟リニューアルセレモニーを挙げる。
平成 31 年 4 月	組織を改正し、企画総務部（総務管理課、企画調整課）、食品開発部、地域資源活用部、ものづくり支援部、化学技術部、薬業振興部の 6 部とする。

（2）令和 7 年度の活動概要

基盤業務として、技術相談・技術指導、受託試験、受託研究、研修生受入及び設備機器貸付を実施した。また、センターの 3 つの柱である「技術開発の強化」、「ものづくり支援の強化」及び「人材育成支援の強化」に対する取組を行った。

「技術開発の強化」では、従来実施している萌芽研究やステップアップ研究などの所内研究に加え、令和 5 年度から研究開発を開始した「第三期コア技術確立事業」の 3 テーマ「低濃度 CO₂ の化成品変換技術の開発」、「次世代光制御フィルムの開発」、「機能性を有する和歌山産乳酸菌の開発」を引き続き実施した。また、日本学術振興会による科学研究費助成事業、生物系特定産業技術研究支援センターによるオープンイノベーション研究・実用化推進事業における分担研究等を実施した。さらに、和歌山県と東京大学先端科学技術研究センターとの連携協定に基づく研究活動や、和歌山県と国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）との連携協定に基づく橋渡し事業、関西広域産業共創プラットフォームを通じた研究開発支援を行った。

「ものづくり支援の強化」では、地方創生拠点整備交付金（平成 28 年度補正予算、内閣府）及び生産性革命に資する地方創生拠点整備交付金（平成 29 年度補正予算、内閣府）により整備した 5 つのオープンラボを活用し、事業者が抱える課題の解決や研究開発に対する支援を実施した。

「人材育成支援の強化」では、最新技術に関する情報提供を目的にセミナー（オンラインを含む。）及び講習会を開催した。また、技術の習得やスキルアップ支援のため、体験型研修、技術講習会等を開催した。さらに、事業者の開発者を研修生として受入れることで、事業者の人材育成支援を行った。

(3) 所の構成と規模

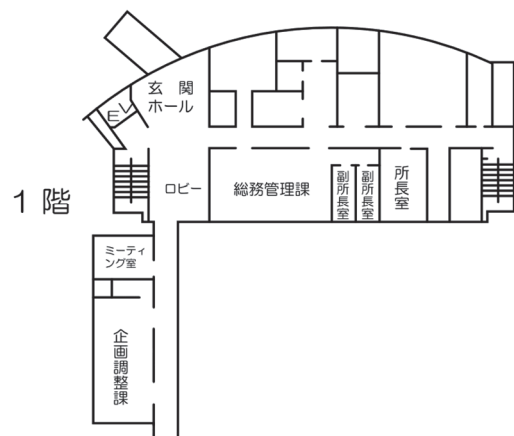
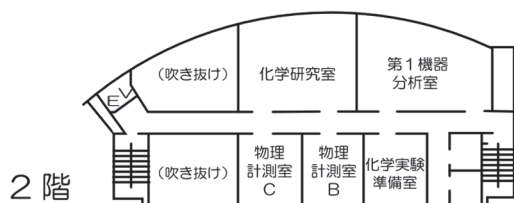
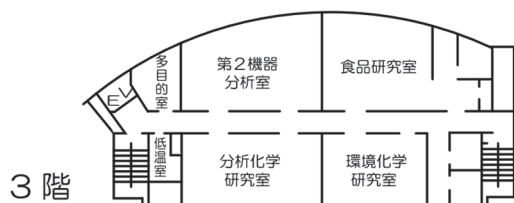
ア 土地・建物

■ 和歌山県工業技術センター：和歌山市小倉 60 番地

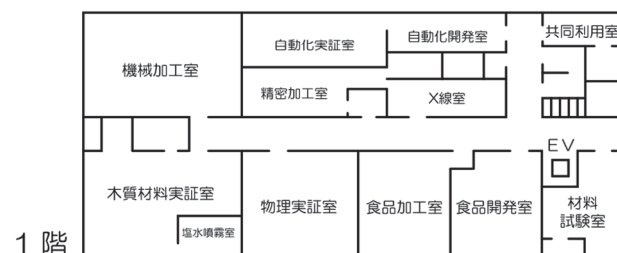
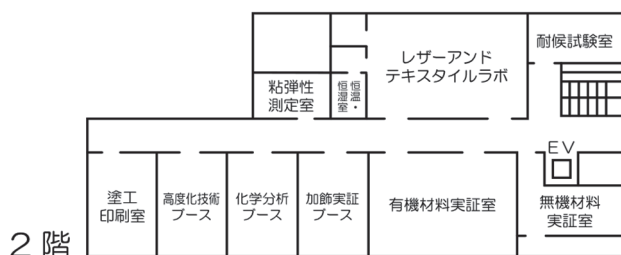
敷地面積： 10,003.09 m²

建築面積： 3,535.12 m²

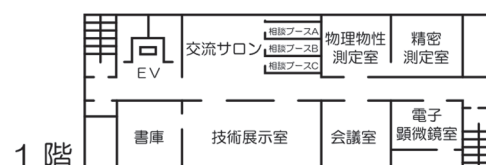
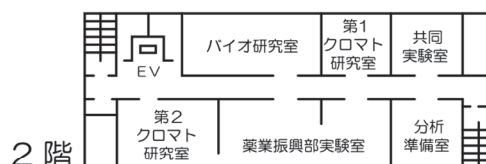
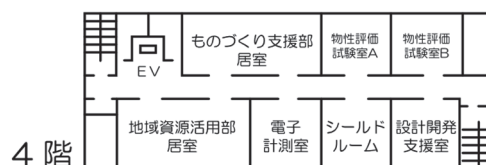
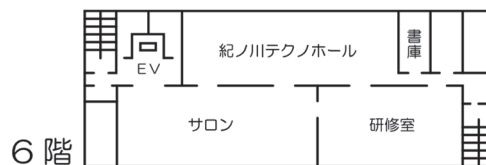
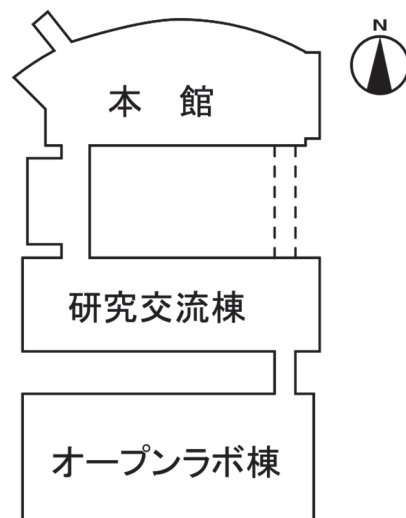
延床面積： 9,945.66 m²



本館

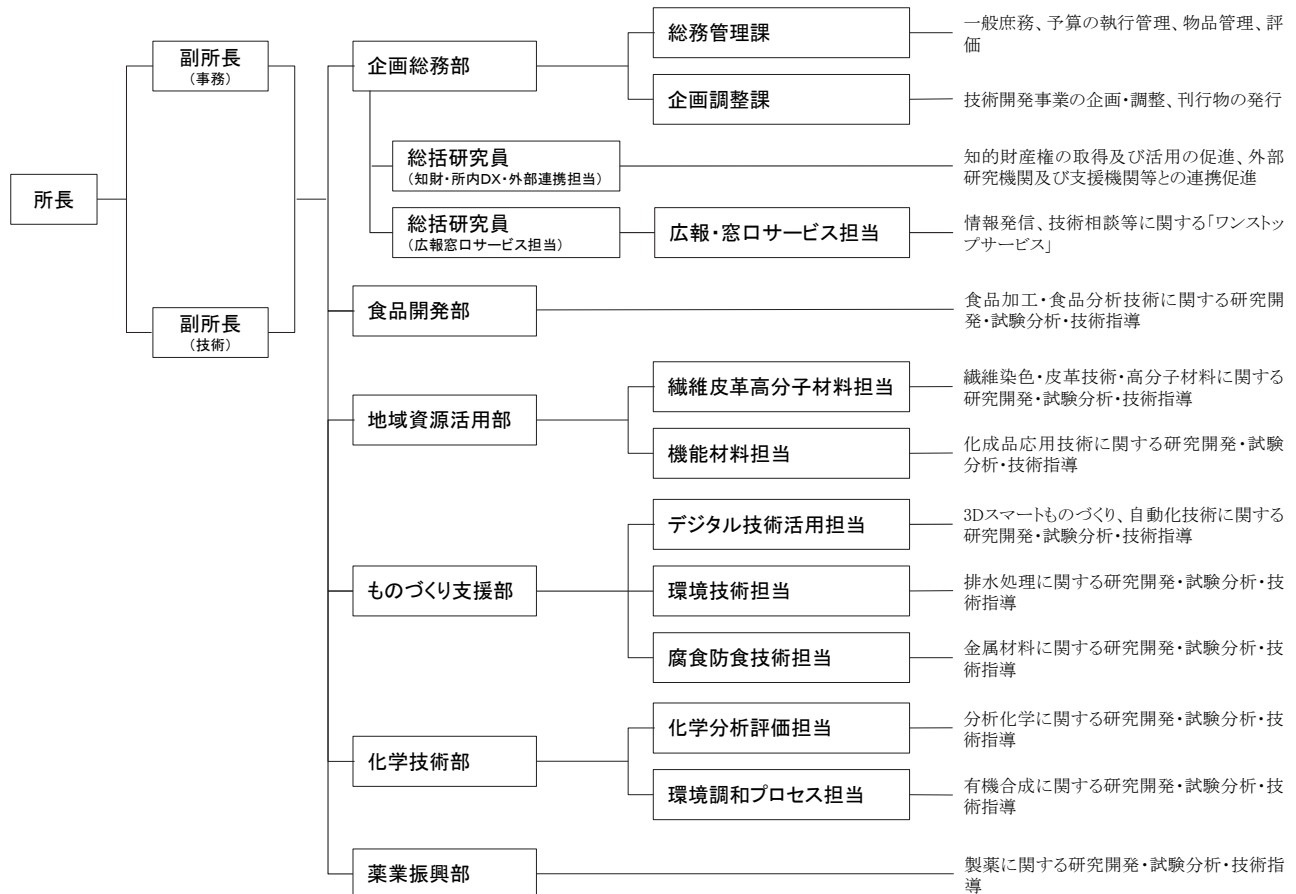


オープンラボ棟



研究交流棟

イ 組織図



ウ 職員現況

(令和7年4月1日現在)

区 分	事務吏員	技術吏員	合 計
所 長	—	1	1
副 所 長	1	1	2
企 画 総 務 部	5	11	16
食 品 開 発 部	—	11	11
地 域 資 源 活 用 部	—	11	11
ものづくり支援部	—	11	11
化 学 技 術 部	—	6	6
薬 業 振 興 部	—	5	5
合 計	6	57	63

エ 会計（令和7年度決算見込額）

【収入の部】

（単位：千円）

科 目	収 入 額	摘 要	
手数料	40,956	試験分析等手数料	
諸収入	41,089	公益財団法人 J K A機械振興補助事業	(22,938)
		提案公募	(7,724)
		受託研究等	(7,361)
		機器貸付等	(3,040)
		その他	(26)
財産収入	766	特許権等運用収入、生産物売払収入	
県債	92,300		
一般財源	78,222		
合 計	253,333		

【支出の部】

（単位：千円）

科 目	支 出 額	摘 要
工業技術センター運営	136,155	
地域産業活性化促進	109,775	
コア技術確立	7,403	
合 計	253,333	

オ 令和7年度購入主要試験研究設備

設備の名称	メーカー名・型式	関連事業名
ガス透過率測定装置	システック・イリノイ・ AquaSense7101（水蒸気透過率測定装置） ／OxySense8101e（酸素透過率測定装置）	公益財団法人 J K A機械振興 補助事業
分光測色計	コニカミノルタ株式会社・CM-3700A Plus	地域産業活性化促進事業
ナノ粒子解析装置	株式会社アントンパール・ジャパン・ Litesizer DLS 700	地域産業活性化促進事業

2 試験研究業務

(1) 地域産業活性化促進事業

ア 萌芽研究

- [研究題目] 吟醸香生産酵素に関する研究2
[研究期間] 令和7年4月～令和8年2月
[研究主担当者] 藤原真紀、山崎俊紀
- [研究題目] 段付きトルク伝達特性を持つ流体継手を用いた、把持対象物の形状に追従して変形するロボットハンドの研究開発
[研究期間] 令和7年4月～令和8年2月
[研究主担当者] 小石英之、上森大誠
- [研究題目] 固相誘導体化法を利用した樹脂中フェノール類の分析法の開発
[研究期間] 令和7年4月～令和8年2月
[研究主担当者] 大崎秀介、増田 剛

イ ステップアップ研究

- [研究題目] みかん果汁の発酵技術の確立
[研究期間] 令和7年5月～令和8年3月
[研究主担当者] 北出絵里朱、藤原真紀、木村美和子、吉村侑子、山崎俊紀

ウ 受託研究

- [研究題目] 魚肉の食感に関する研究
[研究期間] 令和7年4月～令和7年12月
[研究担当者] 木村美和子、片桐実菜、山崎俊紀
- [研究題目] ハナビラタケ及び乳酸発酵ハナビラタケの成分分析
[研究期間] 令和7年4月～令和8年3月
[研究担当者] 高垣昌史
- [研究題目] 色移りを起こしにくいゴム材料の開発
[研究期間] 令和7年5月～令和8年3月
[研究担当者] 結城諒介、宮崎 崇
- [研究題目] 桃果実の品種と栽培方法
[研究期間] 令和7年5月～令和8年3月
[研究担当者] 高垣昌史
- [研究題目] 地域食材を用いた加工食品の試作検討
[研究期間] 令和7年5月～令和8年1月
[研究担当者] 木村美和子、吉村侑子
- [研究題目] ロボットによる熱可塑性炭素繊維強化プラスチック(CFRTP)溶接の強度向上及び安定化に関する研究
[研究期間] 令和7年7月～令和8年3月
[研究担当者] 上森大誠、山本歩美、宮崎 崇、梶本武志

- [研究題目] 生分解性樹脂の耐衝撃性向上
[研究期間] 令和7年10月～令和8年2月
[研究担当者] 宮崎 崇、星野顕一

- [研究題目] 多種の臭気を一括に補足する機能繊維の製造及び用途の開発～アクリレート繊維への銅イオンの担持～
[研究期間] 令和7年9月～令和8年3月
[研究担当者] 結城諒介

- [研究題目] 紀の川はっさく由来乾燥果皮粉末の機能性評価
[研究期間] 令和7年10月～令和8年1月
[研究担当者] 木村美和子、山崎俊紀

- [研究題目] ウメ剪定枝を原料としたバイオ炭製造と性質に関する研究
[研究期間] 令和7年12月～令和8年2月
[研究担当者] 宮崎 崇、梶本武志

- [研究題目] アルミニウム合金ダイガストの強度に関する研究
[研究期間] 令和7年10月～令和8年3月
[研究担当者] 時枝健太郎、重本明彦、内山真明

エ 一般共同研究

- [研究題目] 双腕型協働ロボットの地域産業への適用に関する研究
[研究期間] 令和2年7月～令和11年11月
[研究担当者] 鳥飼 仁、花坂寿章、小石英之、野村侑平、熊野有真
[共同研究機関] 太陽シールパック株式会社
- [研究題目] ユーグレナ Kishu 株(以下「Kishu 株」という。)のバイオ燃料利用に関する研究
[研究期間] 令和5年11月～令和9年3月
[研究担当者] 山際秀誠、東裏典枝
- [研究題目] AI を利用した異物検査に関する研究
[研究期間] 令和6年4月～令和8年3月
[研究担当者] 野村侑平、中嶋真弓
[共同研究機関] 株式会社サンコー
- [研究題目] マイクロリアクターを利用した化学プロセスの実生産スケールでの評価に関する研究
[研究期間] 令和7年4月～令和8年3月
[研究担当者] 藤井 亮、馬場竜希
[共同研究機関] 株式会社神戸製鋼所
- [研究題目] 和歌山県産乳酸菌の産業利用のための評価
[研究期間] 令和7年12月～令和9年3月

[研究担当者] 藤原真紀、片桐実菜、東裏典枝
[共同研究機関] 国立研究開発法人産業技術総合研究所

（ほか、非公開のもの3件）

オ 基盤研究（経常研究）

[研究題目] メタルハライド試験の調査
[研究期間] 令和7年4月～令和8年1月
[研究主担当者] 星野顕一

[研究題目] オープンソース構造解析 CAE ソフトウェア「PrePoMax」に関する調査
[研究期間] 令和7年6月～令和8年1月
[研究主担当者] 上森大誠

[研究題目] 3D ビジョンシステムを用いたロボット制御技術の獲得
[研究期間] 令和7年4月～令和8年2月
[研究主担当者] 熊野有真、野村侑平、花坂寿章

[研究題目] 微小パターン光源制御用プログラム及び光学系の構築
[研究期間] 令和7年4月～令和8年2月
[研究主担当者] 野村侑平、熊野有真、森 智博、森 岳志

[研究題目] 自動燃焼装置付イオンクロマトグラフの活用
[研究期間] 令和7年4月～令和8年2月
[研究主担当者] 増田 剛、大崎秀介

[研究題目] 当帰の採取時期の違いによる根と葉の成分変化に関する研究
[研究期間] 令和7年5月～令和8年2月
[研究主担当者] 石原理恵、辻 昌吾、辻 和成、樫山貴子

(2) コア技術確立事業

[研究題目] 低濃度 CO₂ の化成品変換技術の開発
[研究期間] 令和5年4月～令和8年3月
[研究担当者] 藤井 亮、馬場竜希
[研究内容]

CCU（Carbon Capture and Utilization）プロセスでは、CO₂ ガスの回収・圧縮に係るエネルギー及び変換反応に使用する際の過剰な CO₂ 量が課題として挙げられる。固体 CO₂ 源である炭酸塩を原料として、必要最小量でカルボニル化合物に変換する反応を開発した。

[研究題目] 次世代光制御フィルムの開発
[研究期間] 令和5年4月～令和8年3月
[研究担当者] 森 智博、増田 剛、森 岳志、

竿本仁志

[研究内容] デジタルサイネージ等への応用が期待される投影型透明ディスプレイの実用化に向けて、独自のナノ粒子形成法により、透明性と光拡散性を両立したプロジェクションフィルムの開発に成功した。

[研究題目] 機能性を有する和歌山産乳酸菌の開発
[研究期間] 令和5年4月～令和8年3月
[研究担当者] 片桐実菜、東裏典枝、北出絵里朱、藤原真紀

[研究内容] これまでに、県内約172種の地域資源から91株の乳酸菌を単離し、その中から、4属種26株を工業利用可能な有望株として選抜している。本年度は、この26株を対象に、産業利用に向けた機能性評価、培養条件の検討及び発酵食品の試作を行った。

(3) 提案公募型事業

ア 農林水産業競争力アップ技術開発事業（和歌山県）

[研究題目] 極早生「たねなし柿」の流通中に生じる早期軟化対策技術の確立
[研究期間] 令和5年4月～令和8年3月
[研究担当者] 重本明彦
[共同研究機関] 和歌山県かき・もも研究所
[研究内容]

早期軟化が課題となっている渋柿「中谷早生」において、収穫時の写真と軟化までの日数をデータセットとして利用し、畳み込みニューラルネットワークによる機械学習を実施した結果に基づき、早期軟化判別システムを構築した。

イ オープンイノベーション研究・実用化推進事業（生物系特定産業技術研究支援センター）

[研究題目] 農作物・食品のカビ汚染を検知する昆虫嗅覚受容体利用型簡易検査システムの基盤構築
[研究期間] 令和5年4月～令和8年3月
[研究担当者] 大崎秀介、増田 剛、馬場竜希
[共同研究機関] 東京大学、京都大学、株式会社アイスティサイエンス
[研究内容]

カビ汚染簡易検査システムの実用を想定した場合、環境中に存在する多様な成分がセンサー応答に干渉する可能性がある。そのため、実サンプル測定時に想定される干渉要因を把握することを目的として、東京大田市場の温州ミカン集積場における成分測定を実施した。その結果、検出された成分には、ミカンおよびその他青果由来の成分に加えて、運搬車の排気ガスに由来すると考えられる芳香族炭化水素類が含まれていることが確認された。

ウ 環境対応革開発実用化事業（日本皮革技術協会）

【研究題目】 環境に配慮した製革技術及びジャパンレザー開発の検討ー皮革材料に対するメタルハライドランプ利用に関する調査

【研究期間】 令和7年6月～令和8年2月

【研究担当者】 宮本昌幸、宮崎 崇、星野顕一、結城諒介

【研究内容】

紫外部に強いエネルギーを持つメタルハライドランプ（メタハラ）を利用した耐光試験について、皮革材料への応用の可能性の調査を行った。一般的に用いられている耐光堅ろう度試験条件を参考とした積算露光量条件下では、キセノンランプを用いた試験の代用になる可能性を見いだした。また、紫外線ラジカル発生剤を用いたダメージング加工では、タンニン革を短時間で褐変させ、皮革材料の新たな加飾方法として提案につなげることができた。

エ 科学研究費助成事業 基盤研究（C）（日本学術振興会）

【研究題目】 高分子モルフォロジーによる三重項ー三重項消滅光アップコンバージョンの制御

【研究期間】 令和5年4月～令和8年3月

【研究担当者】 森 岳志、森 智博、竿本仁志

【共同研究機関】 東京大学

【研究内容】

三重項励起状態を利用した三重項ー三重項消滅光アップコンバージョン（TTA-UC）において、色素の三重項励起状態の変化は変換効率に大きく影響する。そのため、TTA-UC特性の向上には、三重項励起状態の制御、特に三重項エネルギーの拡散・移動を適切に扱うことが極めて重要である。本事業では研究期間 R5～R7 にわたり、ポリビニルアルコール（PVA）を高分子マトリックスとして用い、マトリックスのモルフォロジーによる色素の三重項励起状態の制御を目的として研究を進めてきた。R7 年度には、水溶性の近赤外ー可視変換色素を用い、4 種類のオニウム塩を添加した延伸フィルムを作製した。各フィルムについて、UC 発光特性および各種分光分析を行い、マトリックス構造の変化と励起状態との相関について考察した。

【研究題目】 フォトン・アップコンバージョンを活用した高精細 3D 造形技術の開発

【研究期間】 令和7年4月～令和10年3月

【研究担当者】 森 智博、森 岳志

【研究内容】

色素分子による三重項ー三重項消滅に基づくフォトン・アップコンバージョンを活用した光造形法（以下、TTA-UC 造形）は、マイクロ／ナノスケールの高精細な 3D 造形物を安価に作り出すための有望な方式の一つであり、二光子重合による造形法

の代替技術として期待されている。本研究では、デジタルマイクロミラーデバイス（以下、DMD）を利用した微小パターン露光とフォトレジスト組成の最適化によって、集光点近傍の光重合を制御した高精細 TTA-UC 造形技術の確立を目的としている。本年度は、倒立顕微鏡のステージ上に独自の DMD 照明光学系を構築し、フォトレジスト内部への微小パターンの照射に成功した。一方で、実際に光造形を行った結果、高さ方向の精度に課題があり、フォトレジスト組成の更なる検討が必要であることが分かった。今後は、微小領域の発光過程を観察し、発光分析等を行うことで、目標とする造形精度を実現するための制御因子を明らかにする。

オ 2025 年度 機械振興補助事業（公設工業試験研究機関等 共同研究）（公益社団法人 JKA）

【研究題目】 梅加工場における腐食トラブルの改善に向けた腐食調査方法の研究

【研究期間】 令和5年4月～令和8年3月

【研究担当者】 内山真明、時枝健太郎、重本明彦

【研究内容】

梅加工場内は、多量の水を使用するとともに、塩分や有機酸を多量に含む調味液を使用することから、金属材料の腐食が非常に進みやすい環境である。そのためエアコン等の設備機器が腐食により早期に腐食するなど、多額の更新コストが問題となっている。本研究では、梅加工場特有の腐食現象を把握し、腐食トラブルの改善につなげるため、腐食環境測定および再現実験による腐食調査方法の確立を目指した。その結果、インピンジャーや ACM センサを用いた腐食環境測定方法を確立するとともに、梅加工場で確認された酢酸等の腐食性ガスの影響を確認するための再現実験装置を構築することができた。今後、さらなる調査により、詳細な腐食原因の把握および効果的な腐食対策の立案を目指す。

(4) 試験研究成果

ア 外誌発表

(7) 査読有り (9 報)

発 表 題 目	発 表 者	掲 載 誌
Selective synthesis of phenylhydroxylamine under slug flow conditions using Bayesian optimization	YOSHII Asami, FUJII Akira, NISHIYAMA Yasuhiro, MORI Hajime	Journal of Flow Chemistry Vol.15 pp.137~143, 2025
Determining Accurate Pore Structures of Polypropylene Membrane for ECMO Using FE-SEM Under Optimized Conditions	FUKUDA Makoto ⁽¹⁾ , NISHITE Yoshiaki ⁽¹⁾ , MURATA Eri ⁽¹⁾ , NAMEKAWA Koki ⁽²⁾ , MORI Tomohiro, TANAKA Tsutomu ⁽³⁾ , SAKAI Kiyotaka ⁽⁴⁾ ⁽¹⁾ Kindai University, ⁽²⁾ Juntendo University, ⁽³⁾ Osaka Research Institute of Industrial Science and Technology, ⁽⁴⁾ Waseda University	Membranes Vol.174 pp. 6
FIRE-AD: Frequency-dependent Image Reconstruction Error for Micro Defect Detection	NOMURA Yuhei, HACHIYA Hirotaka ⁽¹⁾ ⁽¹⁾ 和歌山大学	Machine Vision and Applications Vol.36 pp.93, 2025
Transparent Projection Film Based on Light Scattering by Polyacrylate Nanoparticles Formed in Poly(vinyl alcohol)	MORI Tomohiro, SAITO Akane, MASUDA Tsuyoshi, SAOMOTO Hitoshi, MORI Takeshi	ACS Applied Optical Materials Vol.3 pp. 1477-1482, 2025
Bicarbonate Salts as Useful Solid CO ₂ Sources in the Carboxylative Cyclizations of 2-Aminobenzonitriles and Propargyl alcohols	FUJII Akira, BABA Ryuki, NISHIYAMA Yasuhiro ⁽¹⁾ , MORI Hajime ⁽¹⁾ Wakayama Prefecture, Growth Industry Promotions Division	Bulletin of the Chemical Society of Japan Vol.98 uoaf063, 2025
Visible to ultraviolet photon upconversion in poly(vinyl alcohol) film and unusual quenching by boric acid	SAITO Akane, MORI Tomohiro, SAOMOTO Hitoshi, MASUDA Tsuyoshi, TAKAGAKI Masafumi, MORI Takeshi	Chemistry Letters Vol.54 , 2025
Photoelectron spectroscopy study of the surface of the ionic liquid BmImPF ₆ before and after Ar ⁺ sputtering	SHIGEMOTO Akihiko, MORI Megumi, MASUDA Tsuyoshi	Journal of Vacuum Science & Technology A Vol.44 pp. 023101
Spin-forbidden Ru Sensitizers Enable Excitation Beyond 1 μ m for Solid-State Triplet-Triplet Annihilation Photon Upconversion	KINOSHITA Takumi ⁽¹⁾ , MORI Takeshi, MORI Tomohiro, SEGAWA Hiroshi ⁽¹⁾ , SAOMOTO Hitoshi ⁽¹⁾ 東京大学	The Journal of Physical Chemistry Letters Vol.17 pp. 3617
ウメ剪定枝を用いた燻製用チップの規格化と加工法の開発	貴志 学, 西畑省吾, 中村 允, 吉村侑子, 前田拓也	美味技術学会誌 Vol. 25 ,2026

(イ) 査読無し（2報）

発 表 題 目	発 表 者	掲 載 誌
和歌山県工業技術センターのご紹介	重本明彦	めっき技術 vol.38, pp.61～65, 2025
「地域共創活動」特集記事	中嶋真弓	ifLink Monthly Report Vol.8 pp.7, 2026

イ その他出版物

題 目	著者／執筆者	掲 載 誌 ／ 書 名 等
Question 8 加工食品を保存する目安になる方法は？ (pp.29～32)	木村美和子	みんなが知りたいシリーズ 食品保存の 疑問 50 発行所 成山堂書店 発行日 2026年3月28日

ウ 所外口頭発表

(ア) 学協会関係（22報）

発 表 題 目	発 表 者	発表会名等	年月日	場 所
機械学習を用いた抗菌性植物抽出物の処方設計	<u>藪内弘昭</u> ⁽¹⁾ ⁽¹⁾ 和歌山県田辺保健所	日本細菌学会@金沢 ワークショップ 11	令和7年5 月29日	石川県立音 楽堂
ヒト腸内常在菌がナリンギンのナリンゲニンへの変換に及ぼす影響	<u>藤田剛士</u> ⁽¹⁾ , 木村美和子, 杉本凌輝 ⁽¹⁾ , 中村 允, 栗原新 ⁽¹⁾ ⁽¹⁾ 近畿大学生物理工学部	日本乳酸菌学会 2025 年度大会	令和7年7 月4日	東北大学
Transparent Screen Film using Polymer Nanoparticles induced by Phase Separation	<u>MORI Tomohiro</u> , SAITO Akane, MASUDA Tsuyoshi, SAOMOTO Hitoshi, MORI Takeshi	The 19th Pacific Polymer Conference (PPC19)	令和7年7 月7日	Kitakyushu International Conference Center & AIM
延伸ポリビニルアルコールフィルム中の有機色素の光励起ダイナミクスと光アップコンバージョン特性	<u>森 岳志</u> , 森 智博, 木下卓巳 ⁽¹⁾ , 竿本仁志 ⁽¹⁾ ⁽¹⁾ 東京大学	高分子学会	令和7年9 月16日	関西大学千 里山キャン パス
非対称積層 CFRP のカップリング変形を応用した義足足部部材の開発	<u>山本歩美</u> , 野田淳二 ⁽¹⁾ , 平田大貴 ⁽²⁾ ⁽¹⁾ 近畿大学生物理工学部, ⁽²⁾ 近畿大学大学院生物理工学研究科	第21回日本接着学 会関西支部 若手の 会	令和7年 10月8日	大阪公立大 学 I-site なん ば
ECMO 用ガス交換膜の細孔構造とガス透過挙動(Knudsen 流れ)の検討	<u>乾 侑樹</u> ⁽¹⁾ , 福田 誠 ⁽²⁾ , 村田恵理 ⁽¹⁾ , 市川瑞碧 ⁽¹⁾ , 田中 努 ⁽³⁾ , 森 智博, 滑川亘希 ⁽⁴⁾ , 酒井清孝 ⁽⁵⁾ ⁽¹⁾ 近畿大学大学院生物理工学研究科, ⁽²⁾ 近畿大学生物理工学部, ⁽³⁾ 地方独立行政法人大阪産業技術研究所, ⁽⁴⁾ 順天堂大学, ⁽⁵⁾ 早稲田大学	第63回日本人工臓 器学会大会	令和7年 11月19日	グランドニッ コ 東京 ベイ 舞浜

発 表 題 目	発 表 者	発表会名等	年月日	場 所
ECMO 用ガス交換膜の断面観察による三次元細孔構造と気体透過挙動に及ぼす影響	村田恵理 ⁽¹⁾ , 福田 誠 ⁽²⁾ , 田尻 怜 ⁽²⁾ , 森 智博, 滑川亘希 ⁽³⁾ , 酒井清孝 ⁽⁴⁾ ⁽¹⁾ 近畿大学大学院生物理工学研究科, ⁽²⁾ 近畿大学生物理工学部, ⁽³⁾ 順天堂大学, ⁽⁴⁾ 早稲田大学	第 63 回日本人工臓器学会大会	令和 7 年 11 月 19 日	グランドニッコー 東京 ベイ 舞浜
走査型プローブ顕微鏡 (SPM) による血液透析濾過膜の 3 次元形態解析	福田 誠 ⁽¹⁾ , 市川瑞碧 ⁽²⁾ , 長田空良 ⁽¹⁾ , 村田恵理 ⁽²⁾ , 乾侑樹 ⁽²⁾ , 森 智博, 滑川亘希 ⁽³⁾ , 酒井清孝 ⁽⁴⁾ ⁽¹⁾ 近畿大学生物理工学部, ⁽²⁾ 近畿大学大学院生物理工学研究科, ⁽³⁾ 順天堂大学, ⁽⁴⁾ 早稲田大学	第 63 回日本人工臓器学会大会	令和 7 年 11 月 19 日	グランドニッコー 東京 ベイ 舞浜
FE-SEM の異なる観察方式・条件と蒸着法の組合せによる ECMO 用 PP 中空糸膜の正確な細孔構造解析	福田 誠 ⁽¹⁾ , 村田恵理 ⁽²⁾ , 乾侑樹 ⁽²⁾ , 市川瑞碧 ⁽²⁾ , 森 智博, 滑川亘希 ⁽³⁾ , 酒井清孝 ⁽⁴⁾ ⁽¹⁾ 近畿大学生物理工学部, ⁽²⁾ 近畿大学大学院生物理工学研究科, ⁽³⁾ 順天堂大学, ⁽⁴⁾ 早稲田大学	第 63 回日本人工臓器学会大会	令和 7 年 11 月 19 日	グランドニッコー 東京 ベイ 舞浜
逆対称 CFRP 積層平板のカップリング特性及び強度低下に及ぼす並列スリットのずれ量の影響	平田大貴 ⁽¹⁾ , 山本歩美, 野田淳二 ⁽²⁾ ⁽¹⁾ 近畿大学大学院生物理工学研究科, ⁽²⁾ 近畿大学生物理工学部	2025 年度 JCOM 若手シンポジウム、日本材料学会	令和 7 年 11 月 26 日	亀の井ホテル 観音寺
ポリアクリレートナノ粒子を用いた透明プロジェクションフィルムの光散乱角分布評価	森 智博, 増田 剛, 竿本仁志, 森 岳志	Optics & Photonics Japan 2025	令和 7 年 12 月 10 日	あわぎんホール
冷却 Ar イオンミリング法を用いた PP 製 ECMO 用中空糸膜の 3 次元平滑断面観察	田尻 怜 ⁽¹⁾ , 福田 誠 ⁽¹⁾ , 村田恵理 ⁽²⁾ , 乾 侑樹 ⁽²⁾ , 田中 努 ⁽³⁾ , 森 智博, 滑川亘希 ⁽⁴⁾ , 酒井清孝 ⁽⁵⁾ ⁽¹⁾ 近畿大学生物理工学部, ⁽²⁾ 近畿大学大学院生物理工学研究科, ⁽³⁾ 地方独立行政法人大阪産業技術研究所, ⁽⁴⁾ 順天堂大学, ⁽⁵⁾ 早稲田大学	第 31 回近畿臨床工学会	令和 8 年1 月17日	奈良県コンベンションセンター
ECMO 用ポリメチルペンテン膜の細孔構造とガス透過性能 (Knudsen 流れ) の検討	乾 侑樹 ⁽¹⁾ , 福田 誠 ⁽²⁾ , 村田恵理 ⁽¹⁾ , 田中 努 ⁽³⁾ , 森 智博, 酒井清孝 ⁽⁴⁾ ⁽¹⁾ 近畿大学大学院生物理工学研究科, ⁽²⁾ 近畿大学生物理工学部, ⁽³⁾ 地方独立行政法人大阪産業技術研究所, ⁽⁴⁾ 早稲田大学	第 31 回近畿臨床工学会	令和 8 年1 月18日	奈良県コンベンションセンター

発 表 題 目	発 表 者	発表会名等	年月日	場 所
Ar イオンミリング法を用いた ECMO 用中空糸膜の異なる素材による平滑横断面構造の相違	森川卓真 ⁽¹⁾ , 福田 誠 ⁽¹⁾ , 村田恵理 ⁽²⁾ , 田尻 怜 ⁽¹⁾ , 田中努 ⁽³⁾ , 森 智博, 滑川亘希 ⁽⁴⁾ , 酒井清孝 ⁽⁵⁾ ⁽¹⁾ 近畿大学生物理工学部, ⁽²⁾ 近畿大学大学院生物理工学研究科, ⁽³⁾ 地方独立行政法人大阪産業技術研究所, ⁽⁴⁾ 順天堂大学, ⁽⁵⁾ 早稲田大学	第 31 回近畿臨床工学会	令和 8 年 1 月 18 日	奈良県コンベンションセンター
FE-SEM の異なる観察方式・条件と蒸着法の組合せによる PP 中空糸膜の正確な細孔構造の解析—膜工学の観点から	福田 誠 ⁽¹⁾ , 村田恵理 ⁽²⁾ , 乾侑樹 ⁽²⁾ , 市川瑞碧 ⁽²⁾ , 森 智博, 酒井清孝 ⁽³⁾ ⁽¹⁾ 近畿大学生物理工学部, ⁽²⁾ 近畿大学大学院生物理工学研究科, ⁽³⁾ 早稲田大学	第 31 回近畿臨床工学会	令和 8 年 1 月 18 日	奈良県コンベンションセンター
クジラ原皮の鞣しに関する検討(第2報)	宮本昌幸, 宮崎 崇, 鍛冶雅信 ⁽¹⁾ ⁽¹⁾ 特定非営利活動法人日本皮革技術協会	日本皮革技術協会環境対応革開発実用化事業報告会(第 68 回皮革研究発表会)	令和 8 年 1 月 30 日	ミーティングスペース AP 市ヶ谷
逆対称 CFRP 積層平板におけるスリット端部の応力分布と破壊様相	平田大貴 ⁽¹⁾ , 山本歩美, 野田淳二 ⁽²⁾ ⁽¹⁾ 近畿大学大学院生物理工学研究科, ⁽²⁾ 近畿大学生物理工学部	第17回 日本複合材料会議(JCCM-17)	令和 8 年 3 月 4 日	立命館大学大阪いばらきキャンパス
固体 CO ₂ 源を用いたカルボキシル化環化反応	藤井 亮, 馬場竜希	日本化学会第 106 春季年会	令和 8 年 3 月 17 日	日本大学理工学部船橋キャンパス
近赤外—可視光子アップコンバージョンフィルムにおける カチオン添加剤効果	森 岳志, 森 智博, 竿本仁志, 木下卓巳 ⁽¹⁾ ⁽¹⁾ 東京大学	第 73 回応用物理学会春季学術講演会	令和 8 年 3 月 18 日	東京科学大学
様々な陸上養殖種より発生する汚泥を用いたウスベニイトミズ飼育試験	赤木知裕, 森 めぐみ, 山際秀誠, 伊藤真奈 ⁽¹⁾ , Alam Md. Khorshed ⁽¹⁾ , 伊藤克敏 ⁽¹⁾ , 大谷 明 ⁽³⁾ , 白石祐彰 ⁽³⁾ ⁽¹⁾ 国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所, ⁽²⁾ 株式会社奥村組,	令和 8 年度公益社団法人日本水産学会春季大会	令和 8 年 3 月 27 日	東京海洋大学品川キャンパス

(イ) 学協会関係以外 (20 報)

発 表 題 目	発 表 者	発表会名等	年月日	場 所
メタルハライド耐候試験機を用いた材料の促進劣化性評価	星野顕一	産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 第 63 回高分子分科会	令和 7 年 10 月 23 日	J:COM ホルトホール大分
三次元造形技術を活用した天然皮革の板締め染色に関する検討	宮本昌幸	産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 令和 7 年度 繊維技術研究会	令和 7 年 10 月 30 日	久留米シティプラザ

発 表 題 目	発 表 者	発表会名等	年月日	場 所
和歌山県オリジナル乳酸菌	藤原真紀, 東裏典枝, 北出絵里朱, 片桐実菜	食品研究成果展示会 2025	令和7年 11月5日	つくば国際会議場
メタルハライド耐候試験機を用いた材料の促進劣化性評価	星野顕一	令和7年度分析事例 討論会	令和7年 11月18日	国立研究開発法人産業技術総合研究所中国センター
自動化・省力化支援の取組	野村侑平	第33回 WAKASA インテクメッセ	令和7年 11月25日	ホテルアバローム紀の国
ジェネレーティブデザインの紹介	小石英之	第33回 WAKASA インテクメッセ	令和7年 11月25日	ホテルアバローム紀の国
3D ものづくりラボを活用した開発支援	花坂寿章	第33回 WAKASA インテクメッセ	令和7年 11月25日	ホテルアバローム紀の国
機能性を有する和歌山ブランド乳酸菌の開発	片桐実菜	わかやまテクノ・ビジネスフェア	令和7年 11月25日	アバローム紀の国
透明スクリーン用フィルムの開発	森 智博	わかやまテクノ・ビジネスフェア	令和7年 11月25日	アバローム紀の国
繊維製品事故事例の紹介	結城諒介	令和7年度産業技術 連携推進会議ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会近畿地域 繊維担当者会議	令和7年 11月28日	大阪産業技術研究所森之宮センター
和歌山県工業技術センターにおける画像処理に関する取組	熊野有真	令和7年度 産業技術 連携推進会議 近畿 地域部会情報・電子 分科会 研究交流会	令和7年 12月4日	兵庫県立工業技術センター
光アップコンバージョン技術とその応用	森 岳志	和歌山化学工業協会	令和7年 12月9日	ホテルアバローム紀の国
繊維皮革高分子担当の紹介およびバイオ炭の炭素貯留量推定方法の開発	宮崎 崇	和歌山化学工業協会	令和7年 12月9日	ホテルアバローム紀の国
カーボンニュートラルにフィットしたCO ₂ 変換技術の開発	藤井 亮	和歌山化学工業協会	令和7年 12月9日	ホテルアバローム紀の国
水生貧毛類を利用した汚泥減容化技術	山際秀誠	和歌山化学工業協会	令和7年 12月9日	ホテルアバローム紀の国
薬業振興部の活動紹介	石原理恵	和歌山化学工業協会	令和7年 12月9日	ホテルアバローム紀の国

発 表 題 目	発 表 者	発表会名等	年月日	場 所
化学技術部、化学分析評価担当の活動紹介	<u>松本明弘</u>	和歌山化学工業協会	令和7年 12月9日	ホテルアバローム紀の国
透明プロジェクションフィルムの開発	<u>増田 剛</u>	和歌山化学工業協会	令和7年 12月9日	ホテルアバローム紀の国
化学技術部、環境調和プロセス担当の活動紹介	<u>馬場竜希</u>	和歌山化学工業協会	令和7年 12月9日	ホテルアバローム紀の国
多変量解析による分析データ解析の高度化	<u>大崎秀介</u>	和歌山化学工業協会	令和7年 12月9日	ホテルアバローム紀の国
CAE(Computer Aided Engineering)を活用した企業支援	<u>上森大誠</u>	和歌山化学工業協会	令和7年 12月9日	ホテルアバローム紀の国
生薬品質集談会報告第56報ーゲンノショウコについてー HPLCによるゲラニイン分析法の検討と市場品の分析	岡坂 衛 ⁽¹⁾ , 石原理恵, 河端昭子 ⁽²⁾ , 田上貴臣 ⁽³⁾ , 谷手紗也香 ⁽⁴⁾ , 西尾雅世 ⁽⁵⁾ , 藤田佑飛 ⁽⁶⁾ , 山下真行 ⁽⁷⁾ , 山本 豊 ⁽⁶⁾ , 吉原司貴 ⁽⁸⁾ , 酒井英二 ⁽⁹⁾ , 森川敏生 ⁽¹⁰⁾ , 松田久司 ⁽¹¹⁾ ⁽¹⁾ 三星製薬株式会社, ⁽²⁾ 三国株式会社, ⁽³⁾ 大阪健康安全基盤研究所, ⁽⁴⁾ 奈良県薬事研究センター, ⁽⁵⁾ 日本粉末薬品株式会社, ⁽⁶⁾ 株式会社栃本天海堂, ⁽⁷⁾ 株式会社京都有機化学研究所, ⁽⁸⁾ 小太郎漢方製薬株式会社, ⁽⁹⁾ 岐阜薬科大学, ⁽¹⁰⁾ 近畿大学, ⁽¹¹⁾ 京都薬科大学	第53回生薬分析シンポジウム	令和7年 12月11日	近畿大学

(5) 特許権

ア 公開特許

公開特許（2件）

公開番号	公開年月日	発明の名称	発明者（職員のみ）	共同出願人
特開 2025-144562	令和7年10月 2日	変異型A T F 2 タンパク質およびその用途	吉村侑子、藤原真紀	—
特開 2026-047119	令和8年3月 13日	透明スクリーン用フィルム及びその製造方法	森 智博、森 岳志、結城諒介、増田剛、竿本仁志、齋藤茜、芳井朝美	—

イ 登録

特許権（6件）

特許番号	登録日	発明の名称	発明者（職員のみ）	共有権者
ZL202280063419.4 （中華人民共和国）	令和7年5月 9日	フォトンアップコンバージョンフィルムおよびその製造方法	森 岳志、森 智博、齋藤 茜、増田 剛、竿本仁志	日東電工株式会社
特許第 7685722 号	令和7年5月 22日	フォトンアップコンバージョンフィルム、フォトンアップコンバージョンフィルムの製造方法、フォトンアップコンバージョン体、積層体及びエネルギー変換デバイス	森 岳志、齋藤 茜、竿本仁志、森 智博	日東電工株式会社
特許第 7713643 号	令和7年7月 17日	フォトンアップコンバージョンフィルム、フォトンアップコンバージョンフィルムの製造方法、フォトンアップコンバージョン体、積層体及びエネルギー変換デバイス	森 岳志、齋藤 茜、竿本仁志、森 智博	日東電工株式会社
I905699 （台湾）	令和7年11月 21日	フォトンアップコンバージョンフィルム、フォトンアップコンバージョンフィルムの製造方法、フォトンアップコンバージョン体、積層体及びエネルギー変換デバイス	森 岳志、齋藤 茜、竿本仁志、森 智博	日東電工株式会社
ZL202480022732.2 （中華人民共和国）	令和8年2月 27日	フォトンアップコンバージョンフィルム、フォトンアップコンバージョンフィルムの製造方法、フォトンアップコンバージョン体、積層体及びエネルギー変換デバイス	森 岳志、齋藤 茜、竿本仁志、森 智博	日東電工株式会社
10-2936508 （大韓民国）	令和8年3月 4日	フォトンアップコンバージョンフィルム、フォトンアップコンバージョンフィルムの製造方法、フォトンアップコンバージョン体、積層体及びエネルギー変換デバイス	森 岳志、齋藤 茜、竿本仁志、森 智博	日東電工株式会社

ウ 実施許諾

(4 件（特許 4 件）） * 共有

登録・出願番号	発明の名称	発明者（職員のみ）	実施許諾件数
*特許第 5747192 号	排水処理装置	高辻 渉、山際秀誠	1
*特許第 5651894 号	噴板の製造方法	重本明彦、中本知伸、 竿本仁志	1
特許第 6019305 号	新規のユーグレナ属微細藻類	山際秀誠、中村 允、 東裏典枝	1
*特許第 7432195 号	オーラブテン含有組成物及びその製造方法	中村 允、小川大輔 沼口規衣、山際美和 子	1

※実施許諾件数は各登録に係る実施権者の数

3 技術相談・指導・企業人材育成・試験分析・設備機器貸付

(1) 技術相談・指導

ア 相談指導項目別集計

項 目	件 数
生産加工	735
試験分析	2,684
測量計測	528
機器貸付	870
品質管理	1,311
クレーム対策	451
技術情報	1,679
デザイン	23
特許情報	7
研究開発	1,266
行政情報	106
その他	202
合 計	9,862

イ 訪問企業数及び延訪問回数

訪問企業数	64 社
延べ訪問回数	101 回

ウ 零細皮革産業技術指導事業（専門家による指導）

指導内容	革及び革製品の製造における新規仕上剤の探索
指導講師	株式会社コロンブス 沼尻 克巳 氏
実施件数	1 件

(2) 企業人材育成

ア 研修生受入

依 頼 先	受 入 人 数	受入担当部（延受入人数）
企業 6 社	12 名	食品開発部 2
		地域資源活用部 9
		ものづくり支援部 1
大学等	—	—
計		12 名

(3) 試験分析等

大 項 目	中 項 目	件 数
一般化学分析	定量	54
機器分析	元素分析	85
	分光分析	258
	クロマト分析	233
	質量分析	171
	X線分析	166
	核磁気共鳴分析	210
	熱分析	124
	表面分析	8
材料試験	強度試験	1577
	硬度試験	24
	金属組織試験	22
	摩耗試験	6
	非破壊試験	188
	その他材料試験	32
電子顕微鏡試験	熱電子型電子顕微鏡試験	171
	電界放出型電子顕微鏡試験	39
	集束イオンビーム走査型電子顕微鏡試験	13
走査型プローブ顕微鏡試験	—	9
レーザー顕微鏡試験	—	4
精密測定	—	23
物性測定	化学物性測定	76
	粉粒体物性測定	94
	粘弾性測定	76
	熱伝導率測定	32
	界面特性測定	12
	その他物性測定	21
拡大観測	光学顕微鏡観測	11
	その他拡大観測	14
環境試験・測定	騒音測定	6
	振動測定	35
	振動試験	231
	腐食試験	80
	恒温恒湿試験	5,704
	耐候試験	1,658
微生物試験	定性	126
	定量	174
特定分野試験	高分子(材料及び製品に限る。)	232
	繊維(糸、布及び加工布に限る。)	75
	食品	404
	木工・漆器	45
	機械金属	26
	皮革	30
	医薬品等	302
デザイン・設計	CAD	73
	CAE	132
	CG	11
特殊加工	機械加工	9
	熱処理	69
	イオンミリング加工	48
	食品乾燥加工	44
	その他特殊加工	105
特殊データ処理	画像処理	5
備考	試験分析前処理	558
小 計		13,935
成績書等の交付		851
合 計		14,786

(4) 設備機器貸付

コード No.	機器名	件数	時間 (hr)
001	紫外線可視近赤外分光光度計	18	26
025	ノイズシミュレータ	3	5
029	フーリエ変換赤外分光光度計	52	81
043	蛍光 X 線分析装置	13	21
044	蛍光分光光度計	2	4
046	原子吸光分析装置	64	75
049	誘導結合プラズマ発光分析装置	16	33
054	試料粉碎機	9	10
061	接触角測定装置	4	5
068	エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置	13	18
072	パンチングマシン	1	1
075	動摩擦係数測定装置	3	11
079	表面張力計	4	5
088	万能材料測定装置	25	26
095	粒度分布測定装置	14	22
097	マイクロスコープ	17	19
098	紫外可視分光光度計	5	5
100	パーティクルカウンター	6	168
101	微量水分測定装置（容量滴定法）	6	19
102	波長透過率校正用光学フィルター	2	72
103	プリンター付表面温度計	11	322
112	安定化電源装置	2	12
113	デジタルワットメーター	5	15
116	静電気試験機	6	12
117	ファースト・トランジェント・バースト試験機	6	16
118	雷サージ試験機	3	7
125	真空包装機	4	5
127	カッターミキサー	1	1
128	高性能匂いかぎ装置付きガスクロマトグラフィー	2	9
138	分光測色計	3	5
140	光沢計	7	9
141	熱物性測定装置	9	17
142	標準分銅セット	8	227
143	レーザー顕微鏡	4	17
144	分光感度測定装置	1	5
145	3次元CADシステム	1	4
152	X線回折装置	9	14
153	大型環境試験機（2 畳）	3	13
159	超伝導核磁気共鳴装置	23	27
160	イオンクロマトグラフ	32	241
161	熱分析システム	9	32
162	粘弾性測定装置	9	43
164	振動試験機	8	77
165	二軸混練押出機	16	62
167	シャルピー衝撃試験機	5	6
168	濁度計	4	4
173	全有機体炭素計	1	20
189	電磁界イミュニティ試験システム（伝導・放射）	6	25
190	電波暗室	6	25
194	万能材料試験機（恒温槽あり）	7	22
195	万能材料試験機（恒温槽なし）	12	24
196	高周波帯域誘電率測定装置	3	7
197	分光放射照度計	1	1
200	定量的構造物性相関（機械学習）システム	2	2
201	全有機体炭素定量装置	5	6
小計		513	1,962
	設備機器の使用に係る指導料	48	50
合計		561	2,012

4 技術交流

(1) 講習会・講演会

ア 講習会・講演会（工業技術センター主催）

講演会・講習会名	樹脂流動解析活用セミナー
開催日	令和7年10月24日（金）
開催場所	和歌山県工業技術センター
講演題目1	射出成形現象の可視化による成形不良の予測
講師1	サイバネットシステム株式会社、技術職 齋藤圭一 氏
参加人数	20名

講演会・講習会名	自動化・省力化セミナー
開催日	令和7年11月7日（金）
開催場所	和歌山県工業技術センター
講演題目1	自分たちでつくるDX - 中小製造業が本気で取り組んだ内製化とAI活用
講師1	岡田研磨株式会社 専務取締役 岡田雄太 氏
講演題目2	ロボット導入への第一歩！ 自社で始められる産業用ロボットのご紹介
講師2	オリエンタルモーター株式会社 サービスサポート事業統括部 テクニカルサポート部 テクニカルサポート課 営業技術グループ 池見隆史 氏
参加人数	22名

講演会・講習会名	機能材料セミナー
開催日	令和7年11月17日（月）
開催場所	和歌山県工業技術センター
講演題目1	高分子微粒子合成および分散・凝集の基礎とその機能化
講師1	神戸大学大学院工学研究科応用化学専攻 教授 南 秀人 氏
参加人数	13名

講演会・講習会名	先端分析講習会
開催日	令和7年11月18日（火）
開催場所	和歌山県工業技術センター
講演題目1	微量分析のための全反射蛍光X線分析のご紹介
講師1	ブルカージャパン株式会社 X線事業部 アプリケーションスペシャリスト 柴田康博 氏
講演題目2	蛍光X線分析のご紹介
講師2	ブルカージャパン株式会社 X線事業部 XMA/XRF セールスマネージャー 北田寿夫 氏
参加人数	17名

講演会・講演会名	材料の促進劣化・評価に関する講演会
開催日	令和7年12月11日（木）
開催場所	和歌山県工業技術センター
講演題目1	メタルハライドランプ方式耐候性試験機の概要と活用事例
講師1	ダイブラ・ウィンテス株式会社 管理部部長兼技術営業部副部長 林 卓宏 氏
講演題目2	劣化材料の色彩による評価
講師2	コニカミノルタジャパン株式会社 センシング事業部西日本営業部大阪営業所エリアマネージャー 中尾光孝 氏
参加人数	15名

講演会・講習会名	合成技術セミナー
開催日	令和7年12月12日（金）
開催場所	和歌山県工業技術センター（オンライン併用）

講演題目 1	ポリカーボネート・ポリエステルの循環のための分解設計・分解技術
講師 1	京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科バイオベースマテリアル学専攻 教授 福島和樹 氏
参加人数	16 名

講演会・講習会名	サーキュラーエコノミー研究会
開催日	令和8年1月14日（水）
開催場所	和歌山県工業技術センター
講演題目 1	製品の環境価値の評価の仕方、環境情報の見せ方
講師 1	一般社団法人サステナブル経営推進機構岡山オフィス 所長 仲井俊文 氏
参加人数	32 名

講演会・講習会名	機器利用セミナー
開催日	令和8年1月16日（金）
開催場所	和歌山県工業技術センター
講演題目 1	イオンクロマトグラフの基本から応用
講師 1	サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社 イオンクロマトグラフィー 営業部 石崎智子 氏
講演題目 2	応用事例のトピックス
講師 2	サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社 イオンクロマトグラフィー 営業部 石崎智子 氏
講演題目 3	自動燃焼装置付イオンクロマトグラフの基礎と機器利用案内
講師 3	化学技術部 主査研究員 増田 剛
参加人数	33 名

講演会・講習会名	腐食防食セミナー
開催日	令和8年2月5日（木）
開催場所	和歌山県工業技術センター
講演題目 1	ステンレスにより耐食性（つよさ）と輝きを！～中性塩電解法によるステンレス鋼 の溶接焼け取りと表面改質～
講師 1	株式会社ケミカル山本 技術部 主務 松下 亮 氏
講演題目 2	実演デモ（焼け取り、錆取りなど）
参加人数	20 名

講演会・講習会名	繊維技術に関する勉強会
開催日	令和8年3月3日（火）
開催場所	和歌山県工業技術センター
講演題目 1	機能性繊維材料の適応性と課題及び環境対策について
講師 1	オギノ繊維技術士事務所 代表 荻野 毅 氏
参加人数	28 名

イ 講習会・講演会（工業技術センター 共催・後援・協賛）

講演会・講習会名	第4回産官学連携準備セミナー ～粉体工学の推進～
開催日	令和7年7月18日（金）
開催場所	和歌山県立医科大学薬学部 伏虎キャンパス
共催	和歌山県工業技術センター、和歌山県立医科大学薬学部
講演題目 1	薬学部による講演「粒子加工における粉体物性の重要性」
講師 1	和歌山県立医科大学薬学部 薬剤学研究室 教授 門田和紀 氏
講演題目 2	産学相互理解のための県内企業の紹介
講師 2	山本化学工業株式会社、ライオンケミカル株式会社
講演題目 3	薬学部内の研究室見学
参加人数	68 名

講演会・講習会名	令和7年度第2回和歌山県日本薬局方講習会
開催日	令和7年10月7日（火）
開催場所	和歌山県工業技術センター
共催	和歌山県工業技術センター、和歌山県薬務課、和歌山県製薬協会
講演題目1	分析機器のバリデーション
講師1	株式会社島津製作所 分析計測事業部 品質保証部 課長 福井麻紀 氏
講演題目2	外部精度管理の実施について
講師2	薬業振興部 副主査研究員 辻 和成
参加人数	30名

講演会・講習会名	和歌山県化学技術者協会講演会
開催場所	和歌山県民文化会館
主催	和歌山県化学技術者協会
後援	和歌山県工業技術センター
講演題目1	デジタル技術によるクローズドループを用いた材料設計とプロセス開発
講師1	奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学領域 基幹研究室 教授 藤井幹也 氏
講演題目2	先進的 AI 活用によるバッチプロセス異常予兆検知とデータサイエンス人材育成の取り組み
講師2	花王（株）デジタル戦略部門 DX ソリューションズセンター SCM DX 共創部 データインテグレーショングループ マネジャー 田村仁 氏
参加人数	29名

講演会・講習会名	令和7年度第3回和歌山県日本薬局方講習会及び令和7年度第1回和歌山県薬事講習会
開催日	令和7年12月3日（水）
開催場所	和歌山県薬剤師会館
共催	和歌山県工業技術センター、和歌山県薬務課、和歌山県製薬協会
講演題目1	日本薬局方と通則の規定 ・ 最近の原薬の医薬品各条を巡る流れ
講師1	国立医薬品食品衛生研究所 薬品部客員研究員 四方田千佳子 氏
講演題目2	医薬品医療機器等法改正について（令和7年度11月、令和8年5月施行分を中心に）
講師2	和歌山県薬務課 副主査 金附宏明 氏
参加人数	28名

講演会・講習会名	第29回化学工学会関西支部・和歌山地区共催セミナー「既存設備を最大限に活かすプラント運用」
開催日	令和8年1月20日（火）
開催場所	ホテルアバローム紀の国
共催	（公社）化学工学会関西支部、和歌山化成品工業協同組合、和歌山県化学技術者協会
協賛	（一社）近畿化学協会、（公社）日本化学会近畿支部、和歌山化学工業協会
後援	和歌山県工業技術センター
講演題目1	既設設備のポテンシャルを引き出す、これからのプラント運用と保全の最適化 — 自動制御・保全最適化から生成 AI による技能継承まで —
講師1	株式会社 Argopilot 相馬 知也 氏
講演題目2	粉体プロセスにおける数値シミュレーションの最前線 ～粉体プロセス実装への挑戦～
講師2	大阪公立大学大学院工学研究科 教授 綿野 哲 氏
講演題目3	プロセスデータを徹底的に活用しよう！
講師3	京都大学大学院情報学研究科 教授 加納 学 氏
参加人数	40名

講演会・講習会名	第5回産官学連携準備セミナー ～モデル生物を活用した産官学連携の深化～
開催日	令和8年1月29日（木）
開催場所	和歌山県立医科大学薬学部 伏虎キャンパス
共催	和歌山県工業技術センター、和歌山県立医科大学薬学部、和歌山県製薬協会
講演題目1	薬学部による講演「組織形成・ヒト疾患モデル生物としてのゼブラフィッシュ」
講師1	和歌山県立医科大学薬学部 分子生物薬学研究室 教授 三宅 歩 氏
講演題目2	薬学部による講演「モデル生物としてのマウス：行動解析から見る産官学連携」
講師2	和歌山県立医科大学薬学部 薬品作用学研究室 講師 岩田圭子 氏
講演題目3	産学相互理解のための団体の紹介
講師3	和歌山県製薬協会 会長 八塚正彦 氏、副会長 高橋良直 氏
講演題目4	薬学部内の施設見学
参加人数	71名

（2）展示会

展示会名	第109回東京レザーフェア
開催日	令和7年5月22日（木）～23日（金）
開催場所	東京都立産業貿易センター台東館（東京都台東区）
展示内容	工業技術センター紹介ポスター、環境対応革開発実用化事業成果ポスター（三次元造形技術を活用した板締め染色、柔軟性漆シートの開発）及び成果物の展示

展示会名	和歌山レザーフェスティバル2025
開催日	令和7年11月29日（土）～30日（日）
開催場所	和歌山市中央コミュニティセンター
展示内容	工業技術センターオープンラボ「レザー&テキスタイルラボ」紹介ポスター、環境対応革開発実用化事業成果ポスター（三次元造形技術を活用した板締め染色、柔軟性漆シートの開発）、試験機器実演（マイクロスコープ）

展示会名	第110回東京レザーフェア
開催日	令和7年12月4日（木）～5日（金）
開催場所	東京都立産業貿易センター台東館（東京都台東区）
展示内容	工業技術センター紹介ポスター、環境対応革開発実用化事業成果ポスター（三次元造形技術を活用した板締め染色、柔軟性漆シートの開発）及び成果物の展示

（3）技術研修・スクール

名称	令和7年度第1回和歌山県日本薬局方講習会
開催期間	令和7年6月4日（水）、6月6日（金）
開催場所	和歌山県工業技術センター
共催	和歌山県工業技術センター、和歌山県薬務課、和歌山県製薬協会
目的・目標・説明等	県内医薬品等関係企業で品質管理に従事する方を対象に、開催参加者を2グループに分け、各グループ毎に1日実施
内容／日程等	日本薬局方通則、秤量に係る基本的な操作等に関する講義及び実習
参加人数	10名

名称	技術研修会 元素の定量分析時の試料調製 ～検量線で確認してみよう！～
開催期間	令和7年7月31日（木）、8月1日（金）
開催場所	和歌山県工業技術センター
目的・目標・説明等	分析実務者又は新たに試料調製を行いたい方を対象に、当センター研究員が試料の前処理（試料の溶液化）及び標準試料の調製におけるノウハウについて、原子吸光分析装置を用いて説明する。

内容／日程等	・試料の調製（溶液化）するための準備 ・原子吸光分析装置による検量線の作成 ・ICP 発光分光分析との違い
参加人数	15 名

名称	微生物・発酵の基礎のキソ
開催期間	令和7年9月12日（金）
開催場所	和歌山県工業技術センター
目的・目標・説明等	新入社員等で微生物の取り扱い経験の浅い方を対象に、微生物や発酵の基礎に関するセミナーを開催する
内容／日程等	微生物の取り扱い経験の浅い方を対象に、微生物に関する基礎的な知識と微生物を利用するための制御技術・衛生管理について解説し、各種発酵食品の製造における微生物の働きや発酵食品以外での微生物利用について紹介する。
参加人数	12 名

名称	レトルト食品の基礎知識と活用セミナー
開催期間	令和7年10月6日（月）
開催場所	和歌山県工業技術センター
目的・目標・説明等	レトルト食品や新しい食品加工技術に取組みたい方を対象に、レトルト加工に関する技術セミナーを開催する。
内容／日程等	・和歌山県工業技術センターの活用案内 ・レトルト食品の製造に関する知識 ・レトルト殺菌機の活用事例と実機による製造の実演
参加人数	19 名

名称	令和7年度第4回和歌山県日本薬局方講習会
開催期間	令和8年3月12日（木）、13日（金）
開催場所	和歌山県工業技術センター
共催	和歌山県工業技術センター、和歌山県薬務課、和歌山県製薬協会
目的・目標・説明等	県内医薬品等関係企業で品質管理に従事する方を対象に、開催。参加者を2グループに分け、各グループ毎に1日実施
内容／日程等	液体クロマトグラフィーに関する講義及び実習
参加人数	10 名

（4）講師派遣

氏 名	年月日	催し物名・主催	会 場	演 題
宮崎 崇	令和7年 5月2日	紀州漆器組合	紀州漆器組合伝 統産業会館	食品衛生法（ポジティブリス ト）にかかる研修会
森 智博	令和7年 5月31日	和歌山県技術士懇話 会	和歌山ビッグ愛	和歌山発のユニークな光機能 材料の開発について
鳥飼 仁 花坂 寿章	令和7年 6月6日	（一社）日本ロボッ トシステムインテグ レータ協会	和歌山県民文化 会館	工業技術センターにおける自 動化支援の取組
梶本 武志	令和7年 12月23日	みなべ町 バイオ炭 勉強会	みなべ町役場	バイオ炭評価について

氏 名	年月日	催し物名・主催	会 場	演 題
森 智博	令和 8 年 1 月 10 日	次世代光フォーラム 2026 in 徳島	徳島大学常三島 キャンパス	フォトン・アップコンバージョ ン技術を利用した材料開発

5 広報

(1) 刊行物

ア 令和7年度研究報告

(第35号 令和8年2月発行 400部)

題 目		著 者
研究報告	柿の糖素材としての活用に関する研究	片桐実菜、木村美和子、佐々木規衣
	ウスベニイトミミズの増殖特性の解明と飼育方法の開発 孵化と溶存酸素濃度の関係性について	赤木知裕、山際秀誠、高辻 渉
	機械学習による化合物反応性予測モデルの作成 特徴量の検討	森 一、芳井朝美
	各種記述子による開始剤の開裂エネルギー予測モデルの作成	森 一、芳井朝美
論文紹介	ウスベニイトミミズ <i>Monopylephorus rubroniveus</i> の飼育に適した餌の検討	赤木知裕、高辻 渉、山際秀誠
	ハイスループット量子化学計算によるデータ蓄積及び 転移学習による高屈折有機材料予測モデル作成	森 一、芳井朝美、山下宗哲
	低濃度 CO ₂ の化成品変換技術の開発 非ガス状 CO ₂ 源としてカルバメート塩を用いたプロパルギルアミンのカルボキシル環化反応 (銀塩による二重活性化経路)	藤井 亮、馬場竜希、芳井朝美、西山靖浩、森 一

イ 技術情報誌 TECHNORIDGE

(各号 800部)

号 数	題 目	著 者
339号 令和7年 7月18日	受託試験ご依頼のポイント	
	巻頭言	内山真明
	金属材料の腐食トラブルの相談にあたって	内山真明
	食品の微生物試験に関して	東裏典枝
	超伝導核磁気共鳴装置 (NMR) の使用にあたって	馬場竜希
	振動試験、産業用 X 線 CT による非破壊試験について	小石英之、花坂寿章
	医薬品等に関連する試験依頼時の注意点	辻 昌吾
	新人紹介・機器紹介	—
340号 令和7年 10月30日	カーボンニュートラル その1	
	巻頭言	鳥飼 仁
	カーボンニュートラルの基礎知識	鳥飼 仁
	サプライチェーン排出量の算定	森 めぐみ
341号 令和8年 2月20日	カーボンニュートラル その2	
	巻頭言	藤井 亮
	「CO ₂ 排出量削減」の第一歩としての省エネ	宮本昌幸
	バイオ炭はじめませんか？	宮崎 崇
	CO ₂ の化学変換	藤井 亮
	機器紹介	—

(2) 来訪者状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
来訪者数 (人)	256	247	274	276	170	230	236	191	255	231	258	291	2,915

(3) 外部報道機関等

内 容	報道機関名	報道日	備 考
化学企業の挑戦サポート	化学工業日報	令和 7 年 6 月 13 日	新聞
きのくに 21 「県内企業とともに歩む和歌山 県工業技術センター」	テレビ和歌山	令和 7 年 7 月 6 日	テレビ& ウェブ
和歌山レザーフェスティバル 2025	テレビ和歌山	令和 7 年 11 月 29 日	テレビ
熊野古道で採取された日本酒酵母でワインを醸 造 株式会社 TOA（ティオーエー）和歌山湯 浅ワイナリー ×女性研究者	近経局 note	令和 8 年 2 月 19 日	ウェブ

(4) 一般見学者

団体・機関：22 団体・機関

参加者数：149 名

6 その他

(1) 職員研修

派遣職員	内 容	期 間	派 遣 先
上森大誠	はじめての CAE 代替モデル構築	令和7年6月20日	サイバネットシステム株式会社
星野顕一	熱分析スクール	令和7年7月3日～ 令和7年7月4日	株式会社日立ハイテクアナリシス
山本歩美	Autodesk Fusion セミナー	令和7年7月24日 ～令和7年7月25日	株式会社VOST
吉村侑子	清酒製造入門	令和7年7月28日 ～令和7年7月30日	公益財団法人日本醸造協会
小石英之	公設試験研究機関研究職員研修	令和7年9月16日 ～令和7年9月19日	独立行政法人中小企業基盤整備機構 中小企業大学校
馬場竜希	NMR 講習会（NMR-3：固体 NMR 初級コース）	令和7年10月16日 ～令和7年10月17日	ブルカージャパン株式会社
山本歩美	粘弾性ユーザースクール	令和8年1月21日	株式会社日立ハイテクアナリシス

和歌山県工業技術センター

令和 7 年度業務年報

令和 8 年 8 月発行

編集・発行

和歌山県工業技術センター
和歌山県和歌山市小倉 60 番地
TEL (073) 477-1271
FAX (073) 477-2880

印刷所

有限会社 土井印刷
和歌山県和歌山市西浜 7 6 8 番地の 9
TEL (073) 431-4981
FAX (073) 431-8475
